土地改良法の一部を改正する法律案参照条文目次

農地中間管理事業の推進に関する法律(平成二十五年法律第百一号)(抄)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	0	0	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	0	\bigcirc	\bigcirc	
23 23 22 22 21 20 18 17 1	農地中間管理事業の推進に関する法律(平成二十五年法律第百一号)	民事保全法(平成元年法律第九十一号)(抄)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	金融機関の信託業務の兼営等に関する法律(昭和十八年法律第四十三号)	国際復興開発銀行等からの外資の受入に関する特別措置に関する法律(昭和二十八年法律第五十一号)	昭和二十一年法律第二十四号(法人に対する政府の財政援助の制限に関する法律)	地方自治法(昭和二十二年法律第六十七号)(抄)・・	会社法(平成十七年法律第八十六号)(抄)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	一般社団法人及び一般財団法人に関する法律(平成十八年法律第四十八号)	土地改良法(昭和二十四年法律第百九十五号)(

目次

第一章 総則(第一条—第四条)

第一章の二 土地改良長期計画(第四条の二―第四条の四)

二章 土地改良事業

第一節 土地改良区の行う土地改良事業

一款 土地改良区の設立 (第五条—第十五条の五)

第二款 土地改良区の管理 (第十六条—第四十六条)

第三款 土地改良区の事業

第一目 事業の施行 (第四十七条—第五十七条の九)

第二目 権利関係の調整(第五十八条―第六十五条)

第四款 土地改良区の地区変更、解散及び合併(第六十六条—第七十六条)

第五款 土地改良区連合(第七十七条—第八十四条)

で、「日では、日本のではのはのは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のではは、日本のではのはのは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本

第三節 第二節 農業協同組合等又は第三条に規定する資格を有する者の行う土地改良事業 国又は都道府県の行う土地改良事業(第八十五条―第九十四条の十) (第九十五条—第九十六条)

第四節 市町村の行う土地改良事業 (第九十六条の二―第九十六条の四)

第三章 交換分合 (第九十七条—第百十一条)

第四章 土地改良事業団体連合会 (第百十一条の二―第百十一条の二十三)

第五章 補則 (第百十二条—第百三十一条)

第六章 監督 (第百三十二条―第百三十六条の四)

第七章 罰則(第百三十七条—第百四十五条)

附則

「定義

第二条 される農作物の栽培を含む。 この法律において「農用地」とは、 以下同じ。)の目的又は主として家畜の放牧の目的若しくは養畜の業務のための採草の目的に供される土地をいう。 耕作 (農地法 (昭和二十七年法律第二百二十九号) 第四十三条第一項の規定により耕作に該当するものとみな

2 この法律において「土地改良事業」とは、この法律により行う次に掲げる事業をいう。

農業用用排水施設、 の 土 地改良事業として施行することを相当とするものとして政令で定める要件に適合する二以上の土地改良施設の新設又は変更を一体とした事業 農業用道路その他農用地の保全又は利用上必要な施設 (以下「土地改良施設」という。) の新設、 管理、 廃止又は変更(あ わせ

業とを一体とした事業を含む。) 行することを相当とするものとして政令で定める要件に適合する次号の区画整理、第三号の農用地の造成その他農用地の改良又は保全のため必要な 改良施設の新設又は変更(当該二以上の土地改良施設の新設又は変更を一体とした事業を含む。)とこれにあわせて一の土地改良事業とし

- 二 区画整理(土地の区画形質の変更の事業及び当該事業とこれに附帯して施行することを相当とする次号の農用地 くは保全のため必要な工事の施行とを一体とした事業をいう。) の造成の 工 事又は 地の 改 良若し
- 帯して施行することを相当とする土地の区画形質の変更の工事その他農用地の改良又は保全のため必要な工事の施行とを一体とした事業をいう。)三 農用地の造成(農用地以外の土地の農用地への地目変換又は農用地間における地目変換の事業(埋立て及び干拓を除く。)及び当該事業とこれに (埋立て及び干拓を除く。) 及び当該事業とこれに附

ユー 隻月也吉)、は二也女長直设)を手夏日(世安くは馬朗こころ毎く)是人の四一埋立て又は干拓

- 五. 改良施設の突発事故被害(突発的な事故による被害をいう。以下同じ。)の復旧(農用地若しくは土地改良施設の災害復旧(津波又は高潮による海水の浸入のために農用地が受けた塩害の除去のため必要な事業を含む。) 又は 土地
- 農用地に関する権利並びにその農用地の利用上必要な土地に関する権利、 農業用施設に関する権利及び水の使用に関する権利の交換分合

七 その他農用地の改良又は保全のため必要な事業

(土地改良事業に参加する資格)

農用地であつて所有権に基づき耕作又は養畜の業務の目的に供されるものについては、その所有者 土地改良事業に参加する資格を有する者は、その事業の施行に係る地域内にある土地についての次の各号のいずれかに該当する者とする。

場合にあつては、その所有者、その他の場合にあつては、その農用地につき当該権原に基づき耕作又は養畜の業務を営む者 長。以下同じ。)に対しその所有者から当該土地改良事業に参加すべき旨の申出があり、 農用地であつて所有権以外の権原に基づき耕作又は養畜の業務の目的に供されるものについては、政令で定めるところにより、農業委員会(農業委 、会等に関する法律 (昭和二十六年法律第八十八号)第三条第一項ただし書又は第五項の規定により農業委員会を置かない市町村にあつては、市町村 かつ、その申出が相当であつて農業委員会がこれを承認

農用地以外の土地であつて所有権に基づき使用及び収益の目的に供されるものについては、その所有者

場合にあつては、 ·令で定めるところにより、その所有者の同意を得て農業委員会に対し当該土地改良事業に参加すべき旨を申し出た場合にあつては、 農用地以外の土地であつて所有権以外の権原に基づき使用及び収益の目的に供されるものについては、その権原に基づき使用及び収益をする者が、 その所有者 その者、その他

- 定めるところにより、 項第四号に規定する土地の所有者で土地改良事業に参加する資格を有しないものが、政令で定めるところにより、 .項第二号に規定する農用地につき所有権以外の権原に基づき耕作又は養畜の業務を営む者で土地改良事業に参加する資格を有しないも 及び収益をする者の同意を得て農業委員会に対しその資格を交替すべき旨を申し出たときも、 当該農用地の所有者の同意を得て農業委員会に対しその資格を交替すべき旨を申し出たときは、 同様とする。 当該土地につき所有権以外の その資格が交替するものとする。 政令で 原に
- ことができないため、 規定の適用については、賃貸人又は貸主が、疾病その他農林水産省令で定める事由によつて当該農用地につき自ら耕作又は 時その農用地を他人に貸し付け、 その耕作又は養畜の業務の目的に供した場合において、 農業委員会が、 政令で定めるところに 養畜の業務を営

3

原に基づき耕作又は養畜の業務を営む者とみなす。 その 貸人又は貸主が近く自ら耕作又は養畜の業務を営 Iむもの と認め、 カゝ つ、 これ を相当と認めるときは、 その賃貸人又は貸主をその 農 用 地 に

- 的に供した場合において農業委員会が政令で定めるところによりその旨の認定をしたときは、 作 る農用地を農地中間管理事業(同条第三項に規定する農地中間管理事業をいう。)の実施により一時他人に貸し付け、 又は養畜の業務を営む者とみなす。 定する農地中間管理機構をいう。以下同じ。)がその借り受けている農用地をまだ貸し付けていないとき、又は農地中間管理機構がその 第一項又は第二項の規定の適用については、 農地中間管理機構 (農 地 中間管理 事業の 推 進に関する法律 その農地中間管理機構をその農用地につき権原に基づき耕 (平成二十五年法 その耕作若しくは養畜の業務 律 第 百 号) 借り受けて 兀 が 月 VI
- 5 る場合にあつては、 第一項の規定の適用については、第九十四条の八第七項 その土地が農用地である場合にあつては、その農用地につき所有権に基づき耕作又は養畜の業務を営む者とみなし、 その土地の所有者とみなす。 (第九十四 条の八の二第六項において準用する場合を含む。 $\overline{}$ その土地が農用 0) 規 定により土 地以外の 地 を使 用 する者 土 地で
- 定を適用しない。 第五十条第一項の道路等の用に供している土地の所有者としての 国若しくは地方公共団体又は前項に規定する土地の所有者としての 国 に は、 第一 項 0
- 7 第五十三条の二の三第一項の規定により指定された土地にあつては、換地を定めない土地として指定されたものに限る。)の所有者若しくは当該土地 1を含 き所有権以外の権原に基づき使用及び収益をする者又は第五十四条の二第五項 を含む。)に掲げる土地を取得した者を除く。)には、これらの者としては、第一項の規定を適用しない。 の規定を第八十九条の二第三項及び第九十六条の四第一項において準用する場合を含む。 有者若しくはこれらの土地につき所有権以外の権原に基づき使用及び収益をする者、 換地計画において換地を定め む。)の規定により土地を取得した者 ない従前の土地若しくは換地 (第五十三条の三の二第一項第一号 (第八十九条の二第三項及び第九十六条の四第一項において準 記計画に おい ·収益をする者、第五十三条の二第一項若しくは第五十三条の二の三第一項て第七条第四項の非農用地区域内に換地を定めた従前の土地若しくはその (第八十九条の二第十項及び第九十六条の四第一項において準用する場 以下この項において同じ。)の規定により指定され た土地 甪 だする場 (これの
- 含む。)の承認又は同意に係る土地(承認に係る土地にあつては、農用地及び第五十条第一項の道路等の用に供されている土地並びにこれらの土 第三号又は第四号に該当する者には、 するときは、 いつては、 条の二第十項、 第五条第六項又は第七項(これらの規定を第四十八条第九項、第八十五条第五項、 同 は、その者の同意を得て、)農用地として利用する旨を農業委員会に申し出た土地を除く。以下「特定用途用地」という。)についての第一項(その同意に際し、その同意をした第一項第三号又は第四号に該当する者が、(当該土地につき第五条第七項に掲げる権利を有する者が他に存 その承認に際し、 項の規定を適用しない。 第八十七条の三第七項、第八十八条第六項及び第十八項、第九十六条の二第七項並びに第九十六条の三第五項において準用する場合を その承認をした行政庁又は地方公共団体が農用地として利用する旨を農業委員会に申し出たものを除き、 当該特定用途用地又は当該特定用途用地を従前の土地とする換地についての同項第三号又は第四号に該当する者と 第八十五条の二第五項、 第八十五条の三第四項及び第 同意に係る土地に 十項、 地以外 第 八

(総代会における解散又は合併の決議)

·四条 総 代会において土地改良区の解散又は合併の決議があつたときは、 理 事は、 当 該決議の日 から五 日 以内に、 組 合員に当該決議 の内容を 通

なければならない。

- 2 に総会を招集しなければならない。この場合において、当該書面の提出は、当該総代会の決議の日から一月以内にしなければならない。の目的である事項及び招集の理由を記載した書面を土地改良区に提出して、総会の招集を請求したときは、理事は、その請求があつた日から二十日以内 前項の総代会の決議に関し、組合員が、総組合員の五分の一(これを下回る割合を定款で定めた場合にあつては、その割合)以上の同意を得て、
- 3 第二十六条第二項及び第三項の規定は、 前項の規定による書面の提出について準用する。
- 4 第二項の請求の日から二週間以内に理事が正当な理由がないのに総会招集の手続をしないときは、 監事は、 総会を招集しなければならない。
- 5 第二項又は前項の総会において第一項の規定による通知に係る事項を承認しなかつた場合には、当該事項についての総代会の決議は、その効力を失う。

(会議招集の通知等)

- 第二十八条 総会を招集するには、その会日から五日前までに、 会議の日時、場所及び目的を各組合員に通知しなければならない。 ただし、 急施を要する
- 2 理事は、前項の規定による通知をした後、遅滞なく、場合には、その会日から三日前までに通知すればよい。 項の規定による通知をした後、遅滞なく、会議の日時、場所及び目的を公告しなければならない。

(決算関係書類)

- 第二十九条の二 理事は、 土地改良区にあつては、 前までに、当該決算関係書類を監事に提出しなければならない。 事業報告書、 事業報告書、 貸借対照表、収支決算書及び財産目録(土地改良施設の管理を行わない土地改良区その他の農林水産省令で定める 収支決算書及び財産目録。以下「決算関係書類」という。)を総会に提出しようとするときは、 その会日から二週
- 2 決算関係書類を総会に提出するときは、監事の意見書を添付しなければならない。
- 3 いて同じ。)の添付をもつて、当該監事の意見書の添付に代えることができる。この場合において、理事は、当該監事の意見書を添付したものとみなす。 きない方式で作られる記録であつて、電子計算機による情報処理の用に供されるものとして農林水産省令で定めるものをいう。第百四十三条第九号にお 前項の監事の意見書については、これに記載すべき事項を記録した電磁的記録(電子的方式、磁気的方式その他人の知覚によつては認識することが
- 事に提出するとともに、 土地改良区は、総会において決算関係書類の承認の決議があつたときは、農林水産省令で定めるところにより、遅滞なく、 これを公表しなければならない。 決算関係書類を都道府県知

(重要事項の議決方法)

- 第三十三条 次に掲げる事項に関する総会の議事は、 総組合員の三分の二以上が出席し、 その議決権の三分の二以上で決する。
- 一定款の変更
- 良事業の廃止 土地改良事業計画 の設定若しくは変更、 第八十五条の三第一項若しくは第六項の規定による申請、 第八十七条の二第四項の規定による同意又は 土地
- 一解散又は合併

削 除

地改良区連合は、 合併をすることができな

申 十七 によつて行う土地改良事業及び前条第一 都道府県 は、 第八十五条第 項の規定により行う土地改良事業のほ項、第八十五条の二第一項、第八十五十 十五条の三第 か、 土地改良事業計画を定めて次に掲げる要件のいずれにも適 一項若しくは第六項又は第八十五条の四 第 定 による 合 「 する

地改良事業 (第二条第二項第二号又は第三号の事業に限る。) を行うことができる。

が .ある場合にあつては、その土地を含む。以下「事業施行地域内農用地」という。)の全てについて農地中間管理機構が農地中間管理権当該土地改良事業の施行に係る地域内にある農用地(その地域内にその土地改良事業の施行により農用地への地目変換を予定する農用: 地以 (農 地 外 中 \mathcal{O} 間 土管 地

事業施行地域内農用地の面積が政令で定める面積以上であることその他その事業施行地域内農用地が政令で定める要件に適合すること。1事業の推進に関する法律第二条第五項に規定する農地中間管理権をいう。以下同じ。)を有すること。

管理権の全ての存続期間又は残存期間が政令で定める期間以上であること。 事業施行地域内農用地について農地中間管理機構が第七項において準用する第八十七条第五項の規定による公告があつた日において有する。 農 地 中 間

事業施行地域内農用地の集団化その他その土地改良事業の施行に係る地域内における農業構造 の改善に 相当程度資すると見込まれること。

五四 事業施行地域内農用地の収益性の向上に相当程度資すると見込まれること。

要 意を得なければならない。 前 (二以上の土地改良事業を併せて施行する場合には、 項の規定により土地改良事業計画を定めるには、都道府県知事は、 その各土地改良事業に係る計画の概要。第六項において同じ。)に前道府県知事は、あらかじめ、農林水産省令で定めるところにより、 につい 当 該土地改良事業の て、 農 地 中 -間管理 計 機 画 構 \mathcal{O} の概

貸付けの相手方の意見を聴かなければならない。 農地中間管理機構は、 前項の同意をする場合において、 その農地 中 間 管理 生権を有る する事 業施行地 域内農用地を貸し付けているときは、 あ 6 かじ め、 そ

3

4 貸し付けているときは、 業の施行により農用地 農地中間管理機構は、 域内農用地とする同項の規定による土地改良事業を行うべきことを要請することができる。 農林水産省令で定めるところにより、 への地目変換を予定する農用地以外の土地がある場合にあつては、 あらかじめ、その貸付けの相手方の意見を聴かなければならない。 都道府県知事に対 Ļ 農地中間管理権を有する農用地 その土地を含む。 この場合において、 以下この条において同じ。)のみを事業施の農用地(第一項の規定により行う土地改良 その農地中間管理 一権を有する農用地

5 [を定 項の規定による要請に基づき、 める場合には、 第二項及び第三項に規定する手続を省略することができる。 都道府県知事がその要請に係る農用地のみを事業施行地域内農用地とする第一項 の規定により行う 土 地 改良 事 業 の計

6 規 その土地改良事業の施行に係る地域内に土地改良施設がある場合において、 定により土地改良事業計画を定めるには、 都道府県知事は、 あらかじめ、 当該土地改良事業の計画の概要について、 その 土地改良施設の管理者として土地改良区 関係 一その 市 町 他農林水産大 議す

臣の指定する者があるときにあつては、その者の意見を聴かなければならない。

業の施行に係る地域に含めるには」と、 及び第九項の規定を準用する。この場合において、第五条第六項及び第七項中 項の場合には、 第五条第六項及び第七項、 前条第八項中「第六項の規定による協議」とあるのは「次条第六項の規定による協議又は意コにおいて、第五条第六項及び第七項中「含めて第一項の一定の地域を定めるには」とあるの 第七条第三項及び第四項、第八条第二項及び第三項、 「次条第六項の規定による協議又は意見の聴取」と読 第八十七条第三項から 第十 項 Ĵ は で 並 「当該土 びに 前 地改良 条 第 八

(急施の場合)

替えるものとする。

とする第二条第二項 Jする第二条第二項第一号の土地改良事業を行う必要があると認める場合には、国又は都道府県は、緊急耐震工事計画を定めてその事で成二十五年法律第九十五号)第九条第五号に規定する脆弱性評価の結果、地震に対する安全性の向上を図るため急速に農業用用排水:(十七条の四)第八十五条から前条までに規定するもののほか、強くしなやかな国民生活の実現を図るための防災・減災等に資する国・ 業を行うことがで 施 変更 くを 内容 本法

- る変更後の農業用用排 る変更後の農業用用排水施設(農林水産省令で定めるものに限る。)がある場合にはその農業用用排水施設に係る予定管理方法等その他必要な事前項の規定により緊急耐震工事計画を定めるには、農林水産大臣又は都道府県知事は、あらかじめ、その緊急耐震工事計画及び当該土地改良事 て、 国営土地改良事業にあつては関係都道府県知事と、 水施設に係る予定管理方法等として、 都道府県営土地改良事業にあつては関係市町村長と協議するとともに、 現に存する土地改良区その他農林水産大臣の指定する者をその農業用用排 その 水施設の 土地改良事 管 ず項につ 業によ 者と
- 3 都道府県知事は、国営土地改良事業につき、農林水産大臣と前項のる旨を定めるときにあつては、その者と協議しなければならない。 項の 規 定による協議をする場合には、 あ 6 いかじめ、 関係市 町 村 長と協 議 な け れ ば なら
- 4 第一 項 \mathcal{O} 場合に は、 第 七条第三項、 第八条第二項 及び第三項並び に第 八十七条第三項 及び第五 項 から第十項 までの規定を準 甪 でする。 でする。

(計画の変更等)

同項 画 申請 十八 地 規定により行う土地改良事業を除く。 後の土地 又は土地改良事業を廃止しようとする場合には、 第 な 要及 に基づいて行う農用地造成事業、第八十七条の二第一項の規定により行う同項第条 農林水産大臣又は都道府県知事は、国営土地改良事業又は都道府県営土地改良 **項** 号 事 (び農 を の事業及び第 業 改良事業の計 (市町村特 林水産 土地改良事業の 省令で定めるときにあ 八十七条の三第一項又は第八十七条の四第一項の規定により行う土地改良事業を除く。 :画の概要(その変更後において二以上の土地改良事業を併せて施行する場合には、その各土地改良事業のうちその変更に係る各位しようとする場合には、あらかじめ、農林水産省令の定めるところにより、土地改良事業計画の変更の場合にあつてはその変 別申請事業、 廃 止の場合にあつては廃止する旨 第八十五条の四第一項の規定による申請に基づいて行う農用地造成事業、 こ いつき、 つては変更後の全体構成)及び予定管理方法等を変更する必要があるときは変更後 [営土地改良事業又は都道府県営土地改良事業 土地改良事業の施行に係る地域その他土地改良事業計画の農林水産省令で定める重要 廃 止 \mathcal{O} 理 生由その の他農林-一号の事業及び第八十七条の三第 水産省令で定める事項 (市町村特別申請事業、)につき、 第八十七条の二第 (現に二以上の 第八十 一項又は第八十七条の その変更後 五. 土地改 0の予定 条の四 良事業を の規定により 第 土 な部分を変更 **生方法等その他** 1地改良事業計 項の 併 兀 規 せて施 第一項 定によ 行う

この条において同じ。)を、それぞれ公告して、次の各号の区分により、それぞれ各号に掲げる同意を得なければならない いる場合には、 その各土 地改良事業のうちその廃止に係る各土地改良事業につき、その名称、 廃 止 0 理 由その他農林水 産 省令で 定 んめる事 項 以 下

一 土地改良事業計画の変更の場合

0) 各土地改良事業のうちその変更に係る各土地改良事業 係る地域に含めた地域内)にある土地について第三条に規定する資格を有する者の三分の二以上の同意 施行に係る地域に該当しないこととなるものがあるときは、その土地改良事業については、その該当しないこととなる地域をその変更後のその施 第八十七条の二第一項の規定により行う同項第一号の事業及び第八十七条の三第一項又は第八十七条の四第一項の規定により行う土地改良事)につき、その変更後のその施行に係る地域)内 変更後の土地改良事業計画に係る土地改良事業の施行に係る地域(その変更後に (これらの土地改良事業のうちに、その変更によりその施行に係る地域の一部 (市町村特別申請事業、第八十五条の四第一 おいて二以上の土 項の規定による申請に基づいて行う農用地 地改良事業を併せて施行する場合に がその変更後 ず業を除 2成事業 のそ

一 土地改良事業の廃止の場合

域)内の土地について第三条に規定する資格を有する者の三分の二以上の同意 :る各土地改良事業(市町村特別申請事業、第八十五条の四第一項の規定による申請に基づいて行う農用地造成事業、第八十七条の二第一項の規その廃止に係る土地改良事業の施行に係る地域(現に二以上の土地改良事業を併せて施行している場合には、その各土地改良事業のうちその廃 り行う同項第 一号の事業及び第八十七条の三第一項又は第八十七条の四第一項の規定により行う土地改良事業を除く。)につき、 その施行に係る地 定にに

- 2 これらの規定による申請に基づいて行う土地改良事業で農用地造成事業等でないものを農用地造成事業等とするために土地改良事業計画 農用地造成地 とする場合には、 る土地改良事業計画の変更(その変更により新たな地域がその農用地造成事業等に係る農用地造成地域の全部又は一部となるものに限る。)をし、又は 国又は都道府県は、 域の全部又は一部となる地域内にある土地についての農用地外資格者についてその全員の同意を得なければならな 前項の三分の二以上の同意又は第六項において準用する第四十八条第四項の三分の二以上の同意のほか、その計画の変更により新 第八十五条第一項、第八十五条の二第一項若しくは第八十五条の三第六項の規定による申請に基づいて行う農用 地 の変更をしよう 成事 に係 たに
- 項に規定する土地改良事業計画の変更については、 その変更により新たに農用地造成地域の全部又は一部となる地域につき第 五. 条 第 五 0 規 定 を準
- 告をする前に、 の土地改良施設の管理者とする旨を定めるとき(農林水産省令で定める場合を除く。)にあつては、 するとともに、 第一項に規定する土地改良事業計画の変更又は土地改良事業の廃止をするには、農林水産大臣又は都道府県知事は、あらかじ その公告をする事項について、国営土地改良事業にあつては関係都道府県知事と、 その土地改良事業により生ずる土地改良施設に係る予定管理方法等として、 現に存する土地改良区その他農林水産大臣 都道府県営土地改良事業にあつては関係市町村長と協 その者と協議しなければならな め、 同 項の規定に 指定する者を による公
- 小知事は、 国営土地改良事業につき、 農林水産大臣と前項の規定による協議をする場合には、 あらかじめ、 関係市町村長と協 議 なけ れ ば なら
- たに変更後 第八項及び第 の土地改良事業計 第五条第六項及び第七項、 九項の規定を準用する。 画 に係る土地改良事業の施行に係る地域とするには」と、 この場合において、第五条第六項及び第七項中「含めて第一項の一定の地域を定めるには」とあ第八条第二項及び第三項、第四十八条第四項及び第六項、第八十七条第五項から第十項まで並び 第四十八条第四 1項中 一前 項第 一号又は第二号の三分の二以 めるのは

6

と、第八十 同 地改良事業の計画 意」と あ Ł る 要又は廃止する旨、廃止の理由その他農林水産省令で定める事項」と、 条の二第八項中「第六項」とあるのは「第八十八条第四 の概要又は廃止する旨、 八 十八 条第一項 第一 号の三分 廃止の理由その他農林水産省令で定める事項」と読み替えるものとする の二以 上 同 意」と、 項」と、「 同 条 第六項中「第三項及び第四 「当該土地改良事業の計画の概要」とあるのは 同条第九項中「土地改良事業の計画の 項」とあるのは 概 同 要」とあるの 項及び第 「変更後 の当 八 + 土 「変更後 地 改 良項

- をしようとする場合には、 を聴くとともに、 市町村又は都道府県は、前項の規定による同意をするには、あらかじめ、農林水産省令の定めるところにより、対の全部又は一部をその区域に含む全ての都道府県の同意を得なければならない。(良事業の施行に係る地域の全部又は一部をその区域の全部又は一部とする市町村の全ての同意を得、かつ、国営 農林水産大臣又は都道 .良事業の施行に係る地域の全部又は一部をその区域の全部又は一部とする市町村の全ての同意を得、かつ、国営土地改良事業にあつては、これらの市行に係る地域に該当しないこととなるときは、その該当しないこととなる地域をその変更後のその施行に係る地域に含めた地域)又は廃止に係る土地 廃止の理由その他農林水産省令で定める事項を、それぞれ示して、当該変更又は廃止につき、 概要及び予定管理方法等を変更する必要があるときは変更後の予定管理方法等その他必要な事項を、 その変更後の土地改良事業計画に係る土地改良事業の施行に係る地域 府県知事は、 あらかじめ、農林水産省令の定めるところにより、土地改良事業計画の変更の場合にあつてはその変更後の 市町村特別申請事業につき、 土地改良事業計画の農林水産省令で定める重要な部分の変更又は (その変更によりその施行に係る地域の一部がその変更 関係土地改良区その他農林水産大臣の指定する者 土地改良事業の廃止の場合にあ 土 つては廃止 改良 後 事 の意見 する旨 いのその \mathcal{O} 計 廃 画
- は都道府県の議会の議決を経なければならない。 当該変更又は廃止に つ き、 当 該 市 町 村

変更又は土地改良事業

当該都道府県の議会の議決を経なければ

の廃止をしようとする場合に

には、

同

項

 \mathcal{O}

規

10 同条第九項中「土地改良事業の計画の概要」とあるのは「変更後の土地改良事業の計画の概要又は廃止する旨、廃止の理由その他農林水産省令で、土地改良事業の計画の概要」とあるのは「変更後の当該土地改良事業の計画の概要又は廃止する旨、廃止の理由その他農林水産省令で定める事項、おいて、同条第八項中「第六項の規定による協議をしようと」とあるのは「第八十八条第七項の規定により同項に規定する事項を示そうと」と、 第七項の場合には、第八条第二項及び第三項、第八十七条第五項から第十項まで並びに第八十七条の二第八項及び第九項の規定を準 事項」と読み替えるものとする。 ·用する。 この場合 項」と で 当 定め

定によるほか、

都道府県知事は、

、あらかじめ、農林水産省令の定めるところにより、当該変更又は廃止につき、事は、市町村特別申請事業につき、第七項に規定する土地改良事業計画の変更又

- 係る地域の 域を変更することにより新たな地域をその農用地造成事業の施行に係る地域の一部とすることができるのは、その新たに当 又は都道府県が第八十五条の四第一項の規定による申請に基づいて行う農用 一部となる地域内にある土地が地方公共団体等有資格地である場合に限るものとする。 地造成事業に係る土地改良事業の計画につき土 コ該農用 地改良 地 造 事 成 不の施行 事 業の 施 に 行に 係
- 林水産大臣又は都道府県知事は、 あるときは変更後 産省令の定めるところにより、 に係る地域その他 そ それぞれ示して、 の施行に係る地域に該当しないこととなるもの の予定管理 土地改良事業計画の農林水産省令で定める重要な部分を変更し、 その変更後の土地改良事業計画に係る土地改良事業の施行に係る地 方法等その 第八十五条の四第一項の規定による申請に基づいて行う農用地造成事業に係る土 土地改良事業 他 必 要な事項 計 .画の変更の場合にあつてはその変更後 んを、 があるときは、 土地改良事業の廃止の場合にあ その該当しな 又は土地改良事業を廃止しようとする場合に いこととなる地域をその変更後のその施行に の土地改良事業の計画の概 つては廃止する旨、 域内 (その変更によりその施行に係る地 廃 地改良 止 要及び予定管理 \mathcal{O} 理 生由その 事業につ 他 保る地 は、 方法等を変 あら 水産省令で定 数の一部 かじ に含めた 改 変更する 良 がそ

ならな

同 又 なけ は 廃 れば 正に る土 改 良 事 業 0) 施 行に係る地 域 多内に にある地 方 公 共 団 体 等 有 資格 地 に 0 11 て 第三条に 規 定する資格を有する全て 0 地 方 公 共 寸

に、その公告をする事項」とあるのは は該 係 市 する。この場合において、 「変更後の土地改良事業の計画の概要又は廃止する旨 都 町村長」とあるのは 項の場合には、 改良事業の計画の概要又は廃止する旨、 道府県知事 (その変更又は廃止について同項の規定により同意を得なければならない地方公共団体等である都道府県の知事を除 第八条第二項 「関係市町村長(その変更又は廃止について同項の規定により同意を得なければならない地方公共団体等である市 同条第八項中 及び 第三項、 「第十二項の規定により同項に規定する事項を示す前に、その示す事項」と、 - 「第六項」とあるのは一項、第八十七条第五項 廃止 の理由その他農林水産省令で定める事項」と、 廃止の理由その他農林水産省令で定める事 から 「第八十八条第四項」と、「当該土地改良事業の 第 十項 べまで、 第八十七 条の二第 同条第九項中「土地改良事業の計画 八項 項」と、第四項中 及び 第九 計画の概要」とある 項 並 「関係都道府県知 びに 「同項の規定による公告をする前 第 四 項 及び [の概 ₹ . 事」とあるのは「 第 は 五.)」と、「関 要」とあ 「変更 \mathcal{O} 規 後 定 を除 る の当 を

第八条第二項及び第三項並びに第八十七条の二第六項から第九項までの規定を準用する。この場合において、同条第八項中第八十七条の二第一項第一号の事業につき、土地改良事業計画の農林水産省令で定める重要な部分を変更し、又は土地改 事業の計画の概要」とあるのは「変更後の土地改良事業の計画の概要又は廃止する旨、 要」とあるのは「変更後の当該土地改良事業の計画の概要又は廃止する旨、廃止の理由その他農林水産省令で定める事項」と、 廃止の理由その他農林水産省令で定める事項」と読み替 又は土地改良事業を廃 「当該土地改良事業の計」良事業を廃止する場合に 同条第九項中「土 「えるも 地画の 画は、

次項において同じ。

)」と読み替えるものとする。

15 行に係る地域の一 に係る地域の一部とすることができるのは、次に掲げる要件のいずれにも適合する場合に限るものとする。都道府県が第八十七条の三第一項の土地改良事業計画につき土地改良事業の施行に係る地域を変更することにより 新 たな地 域 くをその 土 地 改 良 事 0) 施

農用地以 当該土 外の土地がある場合にあつては、その土 地改良事業の施行に係る地域の一部となる地域内にある農用地(その地域内にその土地改良事業の施行により農用 地を含む。 第十七 項において同じ。)の全てについて農地 中間 · 管理機 機構が農 地 地中 へ の 間 地 管 目 理 変換を予 権を 有 するこ する

二 当該土 の全ての存続期間又は残存期間が政令で定める期間以 地 改良事業計画を変更したことにつき第十八項において準用する第八十七 上であること。 条第 五項の 規定による公告があ つた日に お け る前 号 Ó 農 地 中 間 管 理

令で定める重要な部分を変更し、又は土地改良事業を廃止しようとする場合には、 定める事項を、 変更の場合にあつてはその変更後の土地改良事業の計画の概要を、 都道府県知事は、 それぞれ示して、 第八十七条の三第一項の規定により行う土地改良事業につき、土 農地中間管理機構の同意を得なければならない。 土地改良事業の あら 廃止 地 っかじめ、 改良事業の施行に係る地域その他士 の場合にあつては廃止する旨、 農林水産省令で定めるところにより、 廃 止 地 0) 改良事業 理由そ の 土地改良事業計 計 他農林 画 \mathcal{O} 水 林 産 水 省令 産 省 画

16

17 農地中間 ればならな 管理機構 は、 前項の同 意をするには、 あ らかじめ、 当 「該変更又は廃止に . つき、 次 の各号の区分により、 それぞれ各号に掲げる者 0 意見 を聴か

事業計 の変更の場

変更後 0 土 地 改 良事業計 画 に係る土地改良事業の施行に係る地域 (その変更後において二以上の 土地改良事業を併せて施行する場合に その

ないこととなる地域をその 土 設定を受けている者 良 事 係る地域 のうちその の一部がその変更後のその施行に係る地域に該当しないこととなるものがあるときは、その土地改良事業については、 変更に係る各土 変更後のその施行に係る地域に含めた地域内)にある農用地について現に農地中間管理機構から賃借権又は使用貸借 地改良 事業につ き、 その 変更後のその施行に係る地域) 内 (これらの 土 改良事業 木のうち その その該当 変 更に、

一土地改良事業の廃止の場合

18

る各土 その廃止に係る土地改良事業の施行に係る地域 |地改良事業につき、その施行に係る地域 内の農用地について現に農地中間管理機構から賃借権又は使(現に二以上の土地改良事業を併せて施行している場合には、 中間管理機構から賃借権又は使用貸借による権利の その各土地改良事業 不のうち 設定を受け その

規 とあるのは *第十六項及び第十七項」と、同条第六項中「当該土地改良事業の計画の概要」とあるのは「変更後の当該土地改良事業の計画の概要とあるのは「新たに事業施行地域内農用地とするために土地改良事業計画を変更し、又はその要請に係る土地改良事業を廃止する場]」とあるのは「次条第六項の規定による協議又は意見の聴取」と、「当該土地改良事業の計画の概要」とあるのは「変更後の当該土地改良事業の計] .第八十七条の三第四項から第六項までの規定を準用する。この場合において、第五条第六項及び第七項中第十六項の場合には、第五条第六項及び第七項、第八条第二項及び第三項、第八十七条第五項から第十項 き」と、 事業施行 定により行う土地改良事業につき、土地改良事業の施行に係る地域を変更することにより」と、「第一項の規定により行う」とあるのは 概要又は廃止する旨、 の理由その他農林水産省令で定める事項」と読み替えるものとする。 地 の計画の概要又は廃止する旨、廃止の理由その他農林水産省令で定める事項」と、第八十七条の三第四項中「対し、」とあるの 域内農用地」と、 「その農地中間管理権を有する農用地」とあるのは 地域内農用地とする同項の規定による土地改良事業を行うべき」とあるのは 新たに変更後の土地改良事業計画に係る土地改良事業の施行に係る地域とするには」と、第八十七条の二第八項中「第六項の規定による協 廃止の理由その他農林水産省令で定める事項」と、同条第九項中「土地改良事業の計画の概要」とあるのは 同条第五項中「事業施行地域内農用地とする第一項の規定により行う土地改良事業の計画を定める場合には、 「その新たに事業施行地域内農用地とする農用地又はその土地改良事業の廃止に係る事業 第五条第六項及び第七項中「含めて第一項の一定の地域を定めるに 「新たに事業施行地域内農用地とし、又は土地改良事業を廃止す へまで、 第八十七条の二第八項及び第 は 文は 一合に 第二項及び第三項 廃 「その」と、 第一項 する旨、 土 八十八 地 項 改良

るときは変更後の予定管理方法等その他必要な事項又は廃止する旨、廃止の理由その他農林水産省令で定める事項」と、 はその農業用用排水施設に係る予定管理方法等その他必要な事項」とあるのは する場合には、 第八十七条の四第一項の規定により行う土地改良事業につき、緊急耐震工事計画の農林水産省令で定める重要な部分を変更し、 同条第二項中「その緊急耐震工事計画及び当該土地改良事業による変更後の農業用用排水施設(農林水産省令で定めるものに限る。 (農林水産省令で定める場合を除く。) 」と読み替えるものとする。 第八条第二項及び第三項、第八十七条第五項から第十項まで並びに第八十七条の四第二項及び第三項の規定を準用する。 「変更後のその緊急耐震工事計画及び予定管理方法等を変更する必 「定めるとき」とある 又は 土地 改良 が 場合に あ 事 業を廃 る場 0

から第 れがないことが明らかである場合には、 七項、 八項までに規定する手続 第十二項、 っかである場合には、農林水産大臣又は都道府県知事は、第六項、第十六項又は前項の規定による計画の変更又は土地改良事業の廃 (第六項 E おい て準用する第四 十八 条第六項の場合にあつては、 の廃 第十項、 止 が当該 これらの 第十三項又は前 土地改良事業の利害関係 手続のほか、 二項において準用する第八十七 第六項 人の 利 を

第八条第二項に規定する手続)を省略することができる。

(都道府県営土地改良事業の分担金等)

)第二百二十四条の分担金を徴収することができる。 行に係る地域内にある土地につき第三条に規定する資格を有するものその他農林水産省令で定めるものから、 十一条 ものとする。 都道府県は、 政令の定めるところにより、 ただし、 都道府県営土地改良事業(市町村特別申請事業を除く。)によつて利益を受ける者でその 第八十七条の三第一項の規定により行う土地改良事業については、 地方自治法 (昭和二十二年法律第六十七号 その分担金を徴 似収しな

る分担金に相当する部分の費用を負担させることができる。この場合においては、都道府県は、あらかじめ、当該市町村の同意を得なけ 全部又は一部をその区域の全部又は一部とする市町村に対し、 都道 前項の市町村は、政令の定めるところにより、条例で、 府県は、 前項の規定による分担金の全部又は一部の徴収に代えて、都道府県営土地改良事業 同項に規定する者から、同項に規定する部分の費用を地方自治法第二百二十四条の分担金とし その事業に要する費用のうち当該市町村の区域内にある土地に係る同項に掲げる者に対す (市町村特別申請事業を除く。 <u></u>の 施 ればならない。 行に係る地域の

第一項の場合には第九十条第四項及び第七項の規定を、 前項の場合には同条第七項の規定を準用する。

5

て徴収することができる。

地改 る利益の合計)を限度として、 もの 関連 町 て利益を受ける農林水産省令で定める者から、その者の受ける利益 村特別申請事業 都道府県は、政令の定めるところにより、土地改良施設の新設若しくは変更を内容とし、若しくは内容の一部に含む土地改良事業で都道府県 良事業又は関連管理事業の施行に係る地域内にある土地につき第三条に規定する資格を有する者が当該都道府県営市 土地改良事業」という。)又は土地改良施設の管理を内容とする土地改良事業で都道府県営市町村特別申請事業と一体となつてその効果が増大する (政令で定める要件に適合するものに限る。以下この項において「関連管理事業」という。)を行う者その他都道府県営市町村特別申請事業によつ (以下「都道府県営市町村特別申請事業」という。)と一体となつてその効果が生じ、若しくは増大するもの(以下この項において「 地方自治法第二百二十四条の分担金を徴収することができる。 (関連土地改良事業又は関連管理事業を行う者にあつては、それぞれその行う関連土 町村特別申請 事業によつて受け が た行う市

その市 都道府県は、 村の受ける利益を限度として、その事業に要する費用の一部を負担させることができる。 第二項及び前項の規定によるほか、政令の定めるところにより、都道府県営土地改良事業によつて利益を受ける市町村に この場合においては、 第九十条第十 項の規定を準 対 用す Ļ

(土地改良事業の変更等)

2

十五条の二 農林水産省令で定めるところにより、 都道府県知事の認可を受けなければならない。 前条第一項の規定により土地改良事業を行う者は、 (農業協同組合、 農業協同 当該土地改良事業の計画を変更し、 組合連合会又は農地中間管理機構にあつては総会の議決を経 又は当該土地改良事業を廃止しようとする場合に て、 必要な事 ず項を定

うとする場合に 者は、 おい 土地改良事業計画につき土地改良事業の施行に係る地域その他農林水産省令で定める重要な部分を変更し、 て、 同項の認可を申請するには、 あらかじめ、 農林水産省令で定めるところにより、 土地改良事業計画の変更の 又は土地改良事業を廃 場 合にあつては、 しよ そ

その こととなるものがあるときは、その土地改良事業については、その該当しないこととなる地域をその変更後のその施行に係る地域に含めた地域内)、土 各土地改良事業のうちその廃止に係る各土地改良事業につき、その施行に係る地域)内にある土地につき第五条第七項に掲げる権利を有する全ての者の その変更後において二以上の土地改良事業を併せて施行する場合には、その各土地改良事業のうちその変更に係る各土地改良事業につき、 るときは変更後の規約を公告して、土地改良事業計画の変更の場合にあつては、その変更後の土地改良事業計画に係る土地改良事業の て施行している場合には、その各土地改良事業のうちその廃止に係る各土地改良事業につき、その名称及び廃止の理由)並びに規約を変更する必 各土地改良事業につき、 良事業の廃止の場合にあつては、その廃止に係る土地改良事業の施行に係る地域(現に二以上の土地改良事業を併せて施行している場合には、その 施 るときは変更後の規約その他必要な事項を、土地改良事業の廃止の場合にあつては、廃止する旨及び廃止の理由 行に係る地域)内 土 地改良 事 の計画 (これらの土地改良事業のうちに、その変更によりその施行に係る地域の一部がその変更後のその施行に係る地域に該当しない その変更後の土地改良事業計画の概要及び農林水産省令で定めるときにあつては変更後の全体構成) |の概要 (その変更後にお て二以 £ 0 土 地改良事業を併せて施行する場合に は、その各土地 (現に二以上の 一改良事業の 及び規約を変更 土地改良事 施行に係る地 うちその その 変更後 ず業を併 する必 要があ 更に 域

での規定 等」とある 三分の二以上 び第六項中「定款」とあるのは「規約」と、第四十八条第四項中「第三条に規定する資格を有する者の三分の二以上の同意」とあり、 第一項の場合には、第七条第五項及び第六項、第八条、第九条、第十条第一項及び第五項並びに第四十八条第四項、第六項及び第十意を得、かつ、農業協同組合、農業協同組合連合会又は農地中間管理機構にあつては、総会の議決を経なければならない。 「第九十五条の二第二項の同意」と、同条第六項中「第三項及び第四項」とあるのは「同項及び第九十五条の二第二項」と、 (前項に規定する場合にあつては、これらの規定のほか、第五条第三項の規定)を準用する。この場合において、第八条第一項、 のは 項 |の同意」とあるのは「第五条第七項に掲げる権利を有する全ての者の同意」と、「前項第一号又は第二号の三分の二以上の同意」とあるの の同 の同意、同条第三項において準用する第四十八条第四項の同意又は第九十五条の二第三項において準用する第四「当該農業協同組合の組合員、当該農業協同組合連合会を直接又は間接に構成する者、社団たる当該農地中間管 社団たる当該農地中間管理機構の社員及び第九十 同条第十二項中「 十八条第六項 -項から 及 び 第四 界四項第二号 ラ第十二項ま 組 申 組 合員 出 をし 合員 \mathcal{O}

土地改良事業の変更等

<u>ニ</u> と

読

み替

えるものとする

2

、九十六条の三 当該市 前条第一項の規定により土地改良事業を行う市 町村の議会の議決を経なければならない 町 村 は、 当 該 土 地 改良 事 業 0) 計 画 を変更し、 又は当該 土地 改良 事 *業を廃 止 L ようと する場

つては、 変更後の土 ようとする場合には、 項 市町村 る地 (その変更後において二以上の土地改良事業を併せて施行する場合には、その各土地改良事業のうちその変更に係る各土地改良 止 域 する旨及び廃 地改良事業計画の概要及び農林水産省令で定めるときにあつては変更後の全体構成) は、 (その変更後に 土地改良事業計画につき土地改良事業の施行に係る地域その :及び廃止の理由)を公告して、び廃止の理由(現に二以上の土 あらかじめ、 おい て二以 (現に二以上の土地改良事業を併せて施行している場合には、 農林水産省令の定めるところにより、 上の土 一地改良事業を併せて施行する場合には、 土地改 、良事業計画の変更の場合にあ 土 地 他農林水産省令で定める重要な部分を変更し、 改良事業計画の変更の場合にあつては、その変更後の土 つては、 その各土地改良事業のうちその変更に その変更 その各土地改良事業 その他必要な事項 《後の土地改良事業計 を、 のうちその廃 土地改良事業 又は 係る各土 画 止 土 の廃 る土地改 地 係る各土 改 光止の場: 事業 良事業の 0 事 ※合にあ き、 地 を 改良 廃 そ 計

の全部又は一部をその地区の全部又は一部とする土地改良区があるときは、その土地改良区の同意をも得なければならない。 者の三分の二以上の同意を得、 場合には た地域内) 域に該当しないこととなるものがあるときは、その土地改良事業については、その該当しないこととなる地域をその変更後のその施行に係る地 更後 その各土地改良事業のうちその廃止に係る各土地改良事業につき、その施行に係る地域)内にある土地につき第三条に規定する資格を有す 、土地改良事業の廃止の場合にあつては、その廃止に係る土地改良事業の施行に係る地域(現に二以上の土地改良事業を併せて施行してい のその施行に係る地域)内(これらの土地改良事業のうちに、その変更によりその施行に係る地域の一 かつ、土地改良事業計画の変更の場合にあつては、その変更後の土地改良事業計画に係る土地改良事業の施行に係る地 部 がその変更後 のその 施 域に含 に

- に 部又は一 ついての農用地外資格者についてその全員の同意を得なければならない。 は、 第一項の市町村は、農用地造成事業等に係る土地改良事業計画の変更(その変更により新たな地域がその農用地造成事業等に係る農用地造成 前項の三分の二以上の同意及び土地改良区の同意のほか、その計画の変更により新たに農用地造成地域の全部又は一部となる地域内にある土地に 部となるものに限る。)をし、又は農用地造成事業等でない事業を農用地造成事業等とするために土地改良事業計画の変更をしようと でする場合成地域の全
- 規定を準用する。 前項に規定する土地改良事業計画の変更については、その変更により新たに農用地造成地域の全部又は一部となる地域につき第五条第五項及び 第 六条
- から第十項まで並びに前条第五項及び第六項の規定を準用する。この場合において、第五条第六項及び第七項中「含めて第一項の一第一項の場合には、第五条第六項及び第七項、第七条第五項及び第六項、第八条第二項及び第三項、第四十八条第四項及び第六項 する者」とあるのは「市町村」と、第四十八条第四項中「前項第一号又は第二号の三分の二以上の同意」とあるのは「第九十六条の三第二項の三分の二 は」とあるのは「新たに変更後の土地改良事業計画に係る土地改良事業の施行に係る地域とするには」と、第七条第五項中「第一項の規定により申請 |更後の土地改良事業計画に係る土地改良事業の施行」と読み替えるものとする。 一画を定める」とあるのは の同意」と、 同条第六項中「第三項及び第四項」とあるのは 「第九十六条の三第一項の規定により土地改良事業計画の変更をする」と、 「同項及び第九十六条の三第二項」と、 項、第四十八条第四項及び第六項、 「当該土地改良事業の施 前条第五項中「第一項の規定により土地 行」とあるの 定の地域を定 は 心改良事 んめるに 「その
- 第六項の場合にあつては、これらの手続のほか、 かである場合には、 ;である場合には、市町村は、前項において準用する第八十七条第五項から第八項までに規定する手続(前項において読み替えて準用する第四十八項の規定による土地改良事業計画の変更又は土地改良事業の廃止が当該土地改良事業の利害関係人の権利又は利益を侵害するおそれがないことが 前項において準用する第八条第二項に規定する手続)を省略することができる。

. 準用規定)

第 五 して」とあ 第八十八条第十九項及び第二十項、 六条の四 十七条の二第一項から第三項まで、第五十七条の三、第五十八条から第六十五条まで、 第五十条、 款 るのは 」とあり、 第九十六条の二第一項の規定により行う土地改良事業には、第三十六条第一項及び第五項から第八項まで、 第五十二条第一項から第三項まで、 「その事業によつて利益を受ける者でその事業の施行に係る地域内にある土地につき第三条に規定する資格を有するものその 並びに第六十一条第三項中 第九十条第四 項並びに第九十三条の規定を準用する。 「規約」とあるのは「条例」と、第三十六条第一項中「その地区内にある土地につき、 第五項前段及び第六項から第九項まで、 この場合において、第三十六条第一 第八十七条の四第一項、第二項及び第四項、 第五十二条の二から第五十五条まで、 第三十六条の三第 項及び第三十六条の三第 第五十七 第八十七 組 条 条の五 配合員に

まで並 のは 後の予定管理 地改良事業による変更後の農業用用排水施設 市町村は、 れば」とあるのは「都道府県知事に協議しなければ」と、 条第四項に掲げる者」と、 に規定する資格に係るものを」とあるのは「土地改良事業の施行に係る地域内にある土地につき第三条に規定する資格を有する者が、 必要な事項」とあるのは 第八条第二 に」とあるの て」と、「必要な事項について、 から前条まで」とあるのは「第九十六条の二及び第九十六条の三」と、同条第二項中「あらかじめ」とあるのは「あらかじめ、 する費用を負担したもの」と、第六十四条中「第百十三条の三第二項」とあるのは 第二十七条、 えるものとする。 第一項若しくは第二項」とあるのは 第六十条、第六十一条第一項及び第三項並びに第六十二条第一項中「組合員」とあるのは「第三十六条第一項に規定する者でその土地改良 良区から、 第八十五条から前条まで」とあるのは「第九十六条の二から第九十六条の四まで」と、「国又は都道府県は、 「前条第六項」」と、 びに」と、 「第六項、 条 ほか、 「当該組合員」とあるのは 第一 項」と、「第八十七条の四第二項及び第三項」とあるのは「第八十七条の四第二項」と、 当 方法等その他必要な事項又は廃止する旨、 該市町村の議会の議決を経て応急工事計画を定め、」と、第八十八条第十九項中「第八条第二項」とあるのは は「必要な事項について」と、 第二十八条第一項」とあるのは めるも 項に規定する者」と、 第六項において準用する第八条第二項に規定する手続)」とあるのは 第十項、 第五十五条中 同 意を得て」 「同項中「その緊急耐震工事計画」と、「変更後のその緊急耐震工事計画及び予定管理方法等を変更する必要があるときは 対 第十三項又は前二項」とあるのは「同項」と、「手続 第五十三条の四第二項中「第五十二条第四項から第九項まで及び」とあるのは Ļ 「同条第六項」とあるのは「前条第六項」」とあるのは その者の受ける利益を限度とし 「申請し」とあるのは「申請 こあるのは「第九十六条の二から第九十六条り引とで・・、「刑・・・・・」の第五項及び第六項」と、第八十七条の五第一項いて」と、同条第四項中「第七条第三項」とあるのは「第七条第三項、第五項及び第六項」と、第八十七条の五第一項国営土地改良事業にあつては関係都道府県知事と、都道府県営土地改良事業にあつては関係市町村長と協議するととも国営土地改良事業にあっては関係市町村の議会の議決を経 と 第九十三条中 「その者」と、第五十二条第六項中 「同項」と、 「対する負担金」とあるのは「対して賦課徴収する金銭、 (農林水産省令で定めるものに限る。) がある場合にはその農業用用排水施設に係る予定管理方法等その 「第二十八条第一 第三十六条の三第一項中 「土地改良区その 廃止の理由その他農林水産省令で定める事項」とあるのは「市町村の議会の議 同条第一項中「管理規程を定め」とあるのは し、又は嘱託し」と、 項」と、 て、 ر کر 他の者」とあるの 第五十二条の三第二項中「「前条第二項に掲げる技術者」とあるの 「当該土地改良区の理事」とあるのは 同 条第 合員が、土地改良事業の施行に係る地域内にある土地 五. (第六項において準用する第四十八条第六項の場合にあ 第五十七条の二第一項及び第三項 「第百十三条の三第三項」と、第八十七条の四第一項中「第八十五条 「「前条第二項に掲げる技術者の意見をきいて、 「手続」 は 組合員 「土地改良区その ر ح 夫役又は現品」と、 、又は准組 第九十条第四項中 「同条第二項中「その緊急耐震工事計) 第十二項、第十六項又は前項」とあるの 「条例をもつて、 合員」とあるのは 「第五十二条第五項前段及び第六項から 都道府県営土地改良事業にあ 他 の者 「当該市町村の長」と、 応急工事計画を定めて」とあるの 国 中「都道 「土地改良区から」とあるの 「前二項に掲げる者」とあ |及び 管理規程を定め」と、第五十八 都道 「第七条第五 府 府県を 県知事の認可を受けなけ 項 同条第 その資格に 除 決を経 いつては 定 条第七 する 画及び当 項」とある び当該-る 事 関 に係る土 変更後 業に要 لح は \mathcal{O} 係 項 変更他 九項 市 十 二 は は 項 土

2 項において読み替えて準用 7 は 第九十六条の 二第六項 する第八 0 規 十七条の 定 を準 甪 兀 でする。 第 項 0 緊急耐震工 事 計 画 及び 前 項 12 お い て読み替えて準用する第八十七 一条の五 第 項 0 応急工

第百十一条の九 連合会は、 次に掲げる事業を行うことができる。

- 次号から第四号までにおいて同じ。)に関する技術的な指導その 他 心の援助

- 六 前各号に掲げる事業のほか、第百十一条の二の目的を幸戈すること 全国連合会にあつては会員たる地方連合会の事業の指導 工地改良事業に関する調査及び研究 三 土地改良事業に関する調査及び研究 一 会員の行う土地改良事業 (土地改良事業に附帯する事業を含む。 前各号に掲げる事業のほか、第百十一条の二の目的を達成するため必要な事業

(総会の議決)

第百 十一条の二十 次に掲げる事項は、総会の議決を経なければならない。

- 一定款の変更
- 三 毎事業年度の事業報告書、貸借対照表、収支決算書及び財ニ 毎事業年度の事業計画及び収支予算の設定及び変更 産目 録 の 承認
- 経費の賦課及び徴収の方法
- 前項第一号に掲げる事項に関する総会の議事は、 総会員の三分の二以 上が出席 Ļ その議決権の三分の二以上で決する。

第百 十一条の二十二 連合会は、 次に掲げる事由によつて解散する。

- 二 破産手続開始の決定 一 総会の議決
- 三 定款で定める解散事由の発生
- 第百三十五条第二項の規定による解散命令
- 2 解散の議決については、第百十一条の二十第二項の規定を準用する
- 3 ならない。 連合会は、 解散の議決をしたとき又は定款で定める解散事由が発生したときは、 遅滞なく、 その旨及び解散の年月日を農林水産大臣 に属 け 出 なけ れば

清算中の連合会についての破産手続の開始

第百十一条の二十二の二 てをし、その旨を公告しなければならない。 清算中に連合会の財産がその債務を完済するのに足りないことが明らかになつたときは、 清算人は、 直ちに破産手続開始 0) 申立

- 3 2 前項に規定する場合において、 清算人は、 清算中の連合会が破産手続開始の決定を受けた場合において、破産管財人にその事務を引き継いだときは、その任務を終了したものとする。 清算中の連合会が既に債権者に支払い、 又は権利の帰属すべき者に引き渡したものがあるときは、 破産管財人は、これ
- 4 第一項の規定による公告は、 官報に掲載してする

を取り戻すことができる。

中用規定

第百 」と、第六十八条第四項中「第十八条第十七項から第十九項まで」とあるのは「第十八条第十七項」と読み替えるものとする。 第四項の規定、第六十八条第四項において準用する第十八条第十七項の規定並びに第七十一条の二の規定中「都道府県知事」とあるのは 第三十七条、第四十五条並びに第六十七条の二から第七十一条の六までの規定を準用する。この場合において、第十九条の四第三号及び第二十九条の二 十一条の二十三 第二十九条第 一項本文及び第四項、 連合会には、第十八条第十三項から第十六項まで、 第二十九条の二、第三十一条、 第三十一条の二、第三十二条第一項から第三項まで、第三十四条、 第十九条から第二十一条まで、第二十五条から第二十七条まで、 第二十八条第 「農林水産大臣 第三十五条、

、都道府県が処理する連合会に係る事務)

による農林水産大臣の権限に属する事務の一部は、政令で定めるところにより、都道府県知事が行うこととすることができる。第百三十六条の二 第百十一条の二十三において読み替えて準用する第二十九条の二第四項の規定並びに第百三十二条第二項及び第百三十四条の二

限の委任

第百三十六条の三 この法律に規定する農林水産大臣の権限は、 農林水産省令の定めるところにより、 その一部を地方農政局長に委任することができる。

第百三十六条の四 理することとされている事務(国営土地改良事業に係るものに限る。 治法第二条第九項第一号に規定する第一号法定受託事務とする。 第八十五条第八項、第八十五条の二第十項、 第八十五条の三第五項及び第十一項並びに第八十五条の四第四項の規定により都道)並びに第八十九条の規定により都道府県が処理することとされる事務は、 府県が 地方

第百 四十三条 次の場合においては、土地改良区若しくは土地改良区連合又は連合会の理事若しくは監事又は清算人を二十万円以下の 過 料に処する。

- 第十五条又は第百十一条の九に規定する事業以外の事業を営んだとき。
- 第十八条第六項又は第八十二条第四項の規定に違反してこれらの規定に規定する者に該当する者を監事に選任しなかつたとき 第二十条 (第百十一条の二十三において準用する場合を含む。) の規定に違反したとき
- 第二十四条第 一項の規定に違反して通知することを怠り、 又は不正の通知をしたとき。
- 五四 四条第二項若しくは第四項又は第二十五条第一項、 第二十六条第一項若しくは第二十七条(これらの規定を第百十一条の二十三において準用

する場合を含む。)の規定に違反したとき。

六 第二十九条第一項(第百十一条の二十三において準用する場合を含む。)の規定に違反して書簿を備えず、若しくは保存せず、 又は第二十 九条第三

九八七 第二十九条第四項(第百十一条の二十三において準用する場合を含む。)の規定に違反して書簿の閲覧を拒んだとき。《の規定による農林水産省令に違反してその書簿に記載すべき事項を記載せず、若しくは虚偽の記載をしたとき。

第四十一条第一項の規定に違反したとき。

べき事項を記載せず、 き事項を記載せず、若しくは記録せず、又は虚偽の記載若しくは記録をしたとき。第六十九条又は第七十一条(これらの規定を第百十一条の二十三において準用する場合を含む。)の 書類又は電磁的記録に記載し、 若しくは記

++ 第六十九条の二第一項(第百十一条の二十三において準用する場合を含む。)の

第七十条(第百十一条の二十三において準用する場合を含む。)の規定に違反して土地改良区の残余財産を分配したとき。六十九条の二第一項(第百十一条の二十三において準用する場合を含む。)の期間内に債権者に弁済をしたとき。

この法律の規定による公告をせず、又は虚偽の公告をしたとき。第百三十四条又は第百三十四条の二の規定による命令に違反したとき。

この 法律の規定による登記をすることを怠つたとき。

第百四 十四四 _ 条 第九十四条の八の二第四項又は第五項の規定に違反した農地中間管理機構の役員は、二十万円以下の過料に処する

第百四十五条 第十四条第二 項、 第七十八条第二項又は第百十一 条の六第二項の規定に違反した者は、 十万円以下の過料に処する。

 \bigcirc 般 社団法人及び一 般財団法人に関する法律 (平成十八年法律第四十八号) (抄)

一 目的 第十一条 一般社団法人の定款 (定款の記載又は記録事項) 団法人の定款には、 次に掲げる事項を記載し、 又は 記 録 しなけ ればなら ない。

名称

主たる事務 所の 所 在

(略)

七六五四三二

事業年度 公告方法 の資格の の得喪に関する規定

、設立時役員等

第十五

- 三条の公証人の認証の後遅滞なく、これらの者を選任しなければならない。 設立しようとする一 般社団法人が次の各号に掲げるものである場合において、 定款で当該各号に定める者を定めなかったときは、 設 立 社員 第十
- 設立
- 二 会計監査人設置一般社団法人(会計監査人を置く一般社団法人又はこの法律の規定により会計監査人を置かなければならない一般社団法人をいう。時監事(一般社団法人の設立に際して監事となる者をいう。以下この章、第二百五十四条第六号及び第三百十八条第二項第三号において同じ。) 設立一 監事設置一般社団法人(監事を置く一般社団法人又はこの法律の規定により監事を置かなければならない一般社団法人をいう。以下同じ。) 設立
- 下同じ。 設立時会計監査人(一般社団法人の設立に際して会計監査人となる者をいう。 次条第二項及び第三百十八条第二項第四号において同じ

(役員等に欠員を生じた場合の措置)

第七十五条 された役員(次項の一時役員の職務を行うべき者を含む。)が就任するまで、なお役員としての権利義務を有する。、七十五条(役員が欠けた場合又はこの法律若しくは定款で定めた役員の員数が欠けた場合には、任期の満了又は辞任により退任した役員は、 新たに 選任

2 前項に規定する場合において、 裁判所は、 必要があると認めるときは、 利害関係人の申立てにより、 一時役員の職務を行うべき者を選任することがで

3 5

\bigcirc 会社法 (平成十七年法律第八十六号)

社債管理者の権限等

第七百五条 行為をする権限を有する。 社債管理者は、社債権者のために社債に係る債権の弁済を受け、 又は社債に係る債権の実現を保全するために必要な一 切 \hat{o} 裁 判上又は 裁判外

2 ば おいて、社債券を発行する旨の定めがあるときは、 ならない。 社債管理者が前項の弁済を受けた場合には、 社債権者は、 社債権者は、 その社債管理者に対し、 社債券と引換えに当該償還額の支払を、 社債の償還額及び利息の支払を請求することができる。 利札と引換えに当該利息の支払を請求しなけれ この場合に

3 4 略

(二以上の社債管理者がある場合の特則

2 九条 項に規定する場合において、 規定する場合において、社債管理者が第七百五条第一項の弁済を受けたときは、社債管理者は、社債権者に「以上の社債管理者があるときは、これらの者が共同してその権限に属する行為をしなければならない。 社債権者に対し、 連 帯して、 当該弁済の額を支

払う義務を負う。

-織変更の効力発生日の変更)

第七百八十条 組織変更をする株式会社は、効力発生日を変更することができる。

- 更後の効力発生日)の前日までに、変更後の効力発生日を公告しなければならない。 一般の場合には、組織変更をする株式会社は、変更前の効力発生日(変更後の効力発生日が変更前の効力発生日前の日である場合にあっては、
- 第一項の規定により効力発生日を変更したときは、変更後の効力発生日を効力発生日とみなして、この款及び第七百四十五条の規定を適用する。

第八百二十八条 次の各号に掲げる行為の無効は、当該各号に定める期間に、(会社の組織に関する行為の無効の訴え) 訴えをもってのみ主張することができる。

一~五 (略)

六 会社の組織変更 組織変更の効力が生じた日から六箇月以内

七~十三 (略)

2 次の各号に掲げる行為の無効の訴えは、当該各号に定める者に限り、 提起することができる。

一~五 (略)

等、社員等、破産管財人若しくは組織変更について承認をしなかった債権者六 前項第六号に掲げる行為 当該行為の効力が生じた日において組織変更を 当該行為の効力が生じた日において組織変更をする会社の株主等若しくは社員等であった者又は組織変更後の会社の株主

七~十三 (略)

(被告)

第八百三十四条 次の各号に掲げる訴え (以下この節におい て「会社の組織に関する訴え」と総称する。)については、 当該各号に定める者を被告とする。

六 会社の組織変更の無効の訴え一〜五 (略) 組織変更後の会社

七~二十一 (略)

(訴えの管轄及び移送)

第八百三十五条 会社の組織に関する訴えは、 被告となる会社の本店の所在地を管轄する地方裁判所の管轄に専属する。

2 • (略)

(担保提供命令)

- 第八百三十六条 役、執行役若しくは清算人であるとき、又は当該設立時株主が設立時取締役若しくは設立時監査役であるときは、この限りでない。 会社の組織に関する訴えを提起した株主又は設立時株主に対し、相当の担保を立てるべきことを命ずることができる。ただし、当該株主が取締役、八百三十六条(会社の組織に関する訴えであって、株主又は設立時株主が提起することができるものについては、裁判所は、被告の申立てにより、 監査 当該
- 2 渡した者が提起することができるものについて準用する。 前項の規定は、 会社の組織に関する訴えであって、債権者又は株式交付に際して株式交付親会社に株式交付子会社の株式若しくは新株予約権等を譲り
- 3 第一項 (前項において準用する場合を含む。) の申立てをするには、 原告の訴えの提起が悪意によるものであることを疎明しなければならな

(弁論等の必要的併合)

第八百三十七条 6 同 一の請求を目的とする会社の組織に関する訴えに係る訴訟が数個同時に係属するときは、その弁論及び裁判は、 併合してしなけ

(認容判決の効力が及ぶ者の範囲)

第八百三十八条 会社の組織に関する訴えに係る請求を認容する確定判決は、 第三者に対してもその効力を有する。

(無効又は取消しの判決の効力)

第八百三十九条 容する判決が確定したときは、当該判決において無効とされ、又は取り消された行為(当該行為によって会社が設立された場合にあっては当該設立を含 当該行為に際して株式又は新株予約権が交付された場合にあっては当該株式又は新株予約権を含む。 会社の組織に関する訴え(第八百三十四条第一号から第十二号の二まで、第十八号及び第十九号に掲げる訴えに限る。)に係る請求を認) は、 将来に向かってその効力を失う。

(原告が敗訴した場合の損害賠償責任)

第八百四十六条 して損害を賠償する責任を負う。 会社の組織に関する訴えを提起した原告が敗訴した場合において、 原告に悪意又は重大な過失があったときは、 原告は、 被告に対 連

〇 地方自治法(昭和二十二年法律第六十七号)(抄

- 第二百六十条の二 という。)は、 地域的な共同活動を円滑に行うため市町村長の認可を受けたときは、 町又は字の区域その他市町村内の一定の区域に住所を有する者の地縁に基づいて形成された団体(以下本条において「地縁による団体 その規約に定める目的の範囲内において、 権利を有 義務を負
- 2 前項の認可 は 地縁による団体のうち次に掲げる要件に該当するものについて、 その団体の代表者が総務省令で定めるところにより行う申請に基づい

- 現にその活動を行つていると認められること。 その区域の住民相互の連絡、環境の整備、集会施設の維持管理 等良好な地域社会の 維 持及び形成に資する地域的な共同活動を行うことを目的とし、
- その区域が、住民にとつて客観的に明らかなものとして定められていること。
- その区域に住所を有するすべての個人は、構成員となることができるものとし、 その相当数の者が現に構成員となつていること。

規約には、 次に掲げる事項が定められていなければならない。

名 称 目的 兀

八七六五四三二 区 域

構成員の資格に関する事項主たる事務所の所在地

代表者に関する事項

資産に関する事項会議に関する事項 資産に関する事

⑦ 第一項の認可を受けた地縁による団体④~⑥ (略) ならない。 (以 下 認 可地縁団体」という。 は、 正当な 理 由 がない限 b, その区域に住所を有する個人の 加入を拒 元んでは

8•9 市町村長は、 (略)

第

項の認可をしたときは、

11) は検察官の請求により、第二百六十条の九 認可地 た 同 <u>(17)</u> 様とする。 (略) により、仮代表者を選任しなければならない。認可地縁団体の代表者が欠けた場合において、 事 務が遅滞することにより損害を生ずるおそれがあるときは、 裁判 所 は、 利害関係人又

総務省令で定めるところにより、これを告示しなければならない。

告示した事項に変更があ

つたときも、

ま

 \bigcirc 昭 和二十一年法律第二十四号(法人に対する政府 の財政援助 の制限に関する法律)

約にあつては、 つては、総務大臣)の指定する会社その他の法人の債務については、この限りでない。政府又は地方公共団体は、会社その他の法人の債務については、保証契約をすることが 保証契約をすることができない。 ただし、 財務大臣 (地方公共団体のする保証契

玉 際 復興 開 発銀行等 からの外資の受入に関する特別措置に関する法 律 (昭和二十八年法律第五 + 号) (抄)

(外貨債務の保証)

0

いう。) 額 復興開発銀行又は外国政府金融機関 額。 (法人ごとにその金額を定めることが困難であるときは、 政府は、 次項において同じ。)の範囲内において、保証契約をすることができる。 (以 下 法人に対する政 「国際復興開発銀行等」という。)からの資金の借入契約に基づき外貨で支払わなければならない債務について、予算をもつて定める金 府 の財政援助の制限に関する法律 (当該金融機関に対する出資の金額の半額以上が外国政府の出資により設立されたものであつて政令で定めるも財政援助の制限に関する法律(昭和二十一年法律第二十四号)第三条の規定にかかわらず、政令で定める法人がI 保証契約をすることができる金額を総額をもつて定めるものとし、この場合においては当該 国際 のを

払われるもの(地方債証券については、政令で定めるものに限る。 政府は、法人に対する政府の財政援助の制限に関する法律第三条の規定にかかわらず、 以下「外貨債」という。)に係る債務について、予算をもつて定める金額の範囲内にの規定にかかわらず、次に掲げる法人が発行する債券又は地方債証券のうち外貨で支

一 株式会社国際協力銀行おいて、保証契約をすることができる。

一 株式会社日本政策金融公庫

一 独立行政法人国際協力機構

五 前各号に掲げ四 地方公共団体

前各号に掲げるもののほか、次に掲げる法人で、政令で定めるもの

1 法律の定めるところにより、予算について国会の議決を経なければならない法人

口 特別の法律により債券を発行することができるもの 特別の法律により設立された法人(イに規定する法人を除く。) で、 国 イに規定する法人及び地方公共団体以外の 者の出資の な ないもの のうち

政 府 は、 前 項の規定によるほか、外貨債を失つた者に交付するため発行される外貨債に係る債務につい て保証契約をすることができる。

(兼営の認可)

0

金

融

機関

の

信

託

業務の兼営等に関する法律

昭

和十八年法律第四十三号)

(抄)

3

第一条 を営むことができる。 信 託業法 銀行その他の金融機関 (平成十六年法律第百五十四号)第二条第一項に規定する信託業及び次に掲げる業務 (政令で定めるものに限る。 以 下「金融機関」 という。) は、 他の法律の規定にかかわらず、 (政令で定めるものを除く。 内閣総理大臣の認可を受けて 以下 信託業務」という。

一 信託業法第二条第八項に規定する信託契約代理業

信託受益権売買等業務 (信託受益権の売買等 (金融商品取引法 (昭 和二十三年法律第二十五号) 第六十五条の五第一 項に規定する信託受益権 0 売買

等をいう。)を行う業務をいう。次条第三項及び第四項において同じ。

三 財産の管理(受託する信託財産と同じ種類の財産について、 を行うものに限る。) 次項の信託業務の種類及び方法に規定する信託財産の管理の方法と同じ方法により管理

財産に関する遺言の執行

会計の検査

七六五四 財産の取得、処分又は貸借に関する代理又は媒介

次に掲げる事項に関する代理事務

財産の整理又は清算 第三号に掲げる財産の管理

債権の取立て

ニハロ

債務の履行

3 (略)

2

 \bigcirc 民 事保全法 (平成元年法律第九十一号)

法人の代表者の職務執行停止の仮処分等の登記の嘱託

第五 っては、各事務 分命令又はその仮処分命令を変更し、若しくは取り消す決定がされた場合には、裁判所書記官は、法人の本店又は主たる事務所の所在地(外国法人にあ 十六条 法人を代表する者その他法人の役員として登記された者について、その職務の執行を停止し、若しくはその職務を代行する者を選任する仮処 所の所在地) を管轄する登記所にその登記を嘱託しなけ ればならない。 ただし、 これらの事項が登記すべきものでないときは、 この限り

でない。

 \bigcirc 農地中間 管理事業の推進に関する法律 (平成二十五年法律第百 一号) (抄)

(定義)

(略)

2 • (略)

4 この法律において「農地中間管理機構」とは、第四条の規定による指定を受けた者をいう。

5 取 この法律において「農地中間管理権」とは、 農用地等について、 次章第三節で定めるところにより貸し付けることを目的として、 農地中間管理 機構が

(得する次に掲げる権利をいう。

賃借権又は使用貸借による権利

- 二 所有権 得するものに限る。) (農用地等を貸付けの方法により運用することを目的とする信託 (第二十七条第一項において「農地貸付信託」という。)の引受けにより取
- 農地法第四十一条第一項に規定する利用権

地中間管理機構の指

第四条 管理機構として指定することができる。 のに限る。)であって、農地中間管理事業に関し、 人にあっては地方公共団体が総社員の議決権の過半数を有しているもの、一般財団法人にあっては地方公共団体が基本財産の額の過半を拠出しているも四条(都道府県知事は、農用地の利用の効率化及び高度化の促進を図るための事業を行うことを目的とする一般社団法人又は一般財団法人(一般社団法 次に掲げる基準に適合すると認められるものを、その申請により、 都道府県に一を限って、 農地中間

二 役員の過半数が、経営に関し実践的な能力を有する者であると認められること。 に足りる経理的及び技術的な基礎を有すると認められること。 一 職員、業務の方法その他の事項についての農地中間管理事業に係る業務の実施に関する計画が適切なものであり、 かつ、 その計画を確実に遂行する

農地中間管理事業の運営が、公正に行われると認められること。

であること。 農地中間管理事業以外の事業を行っている場合には、その事業を行うことによって農地中間管理事業の公正な実施に支障を及ぼすおそれがな ŧ

その他農地中間管理事業を適正かつ確実に行うに足りるものとして農林水産省令で定める基準に適合するものであること。

五.